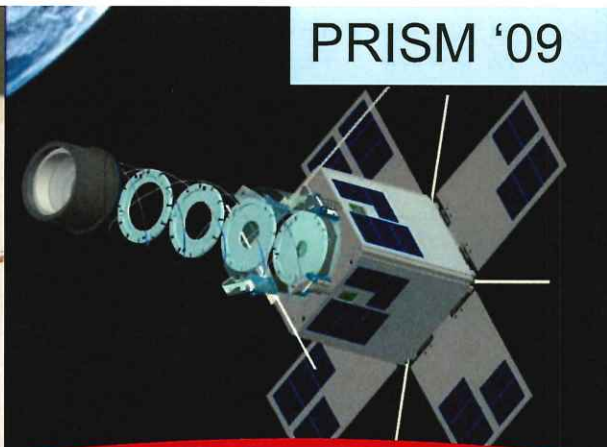
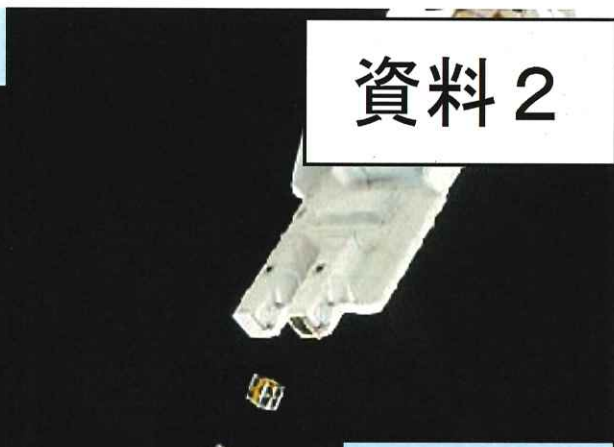


CubeSat



PRISM '09

資料 2



ISS放出

高時間分解能を実現する
静止リモセン+合成開口の可能性

東京大学 中須賀真一



Nano-JASMINE

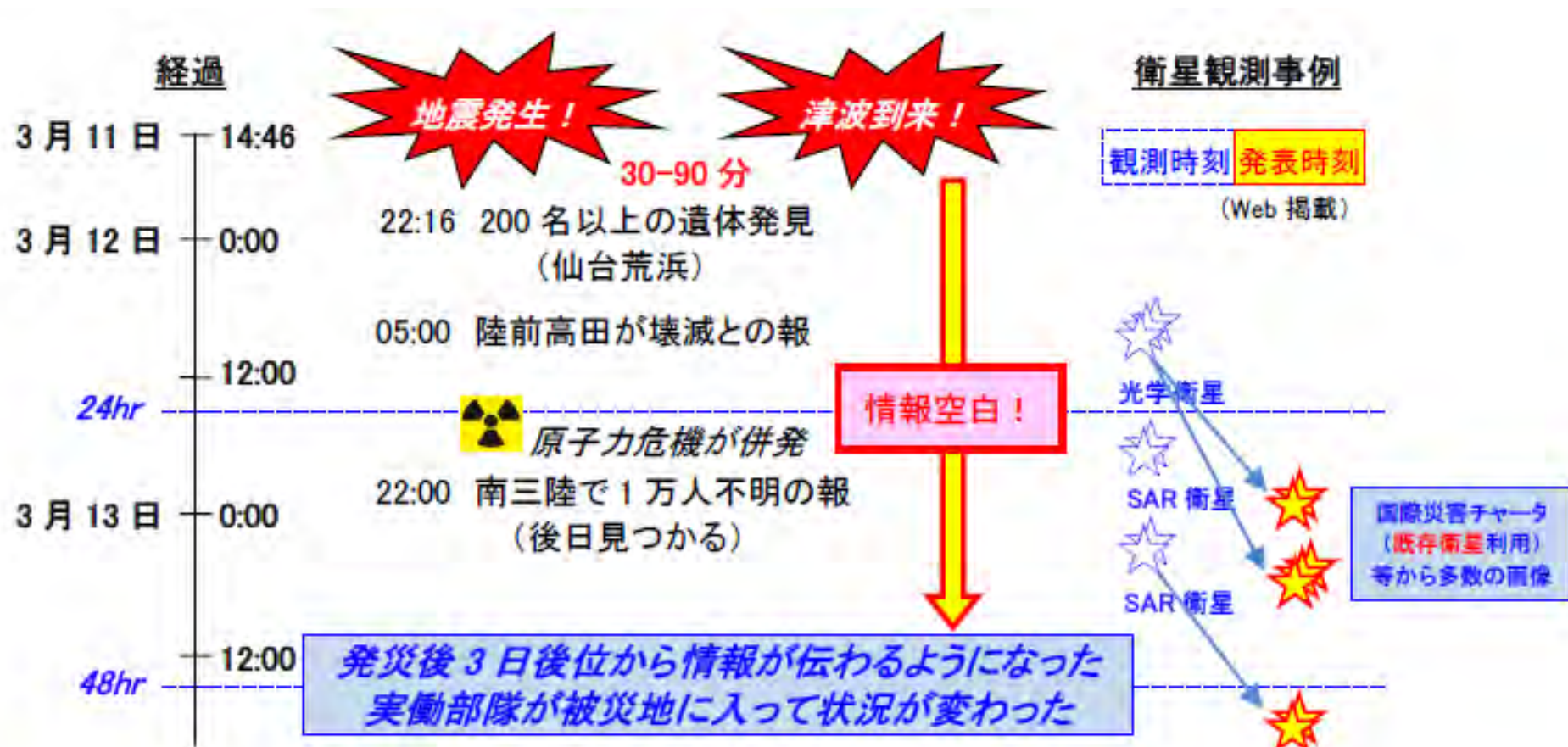


ほどよし3, 4号

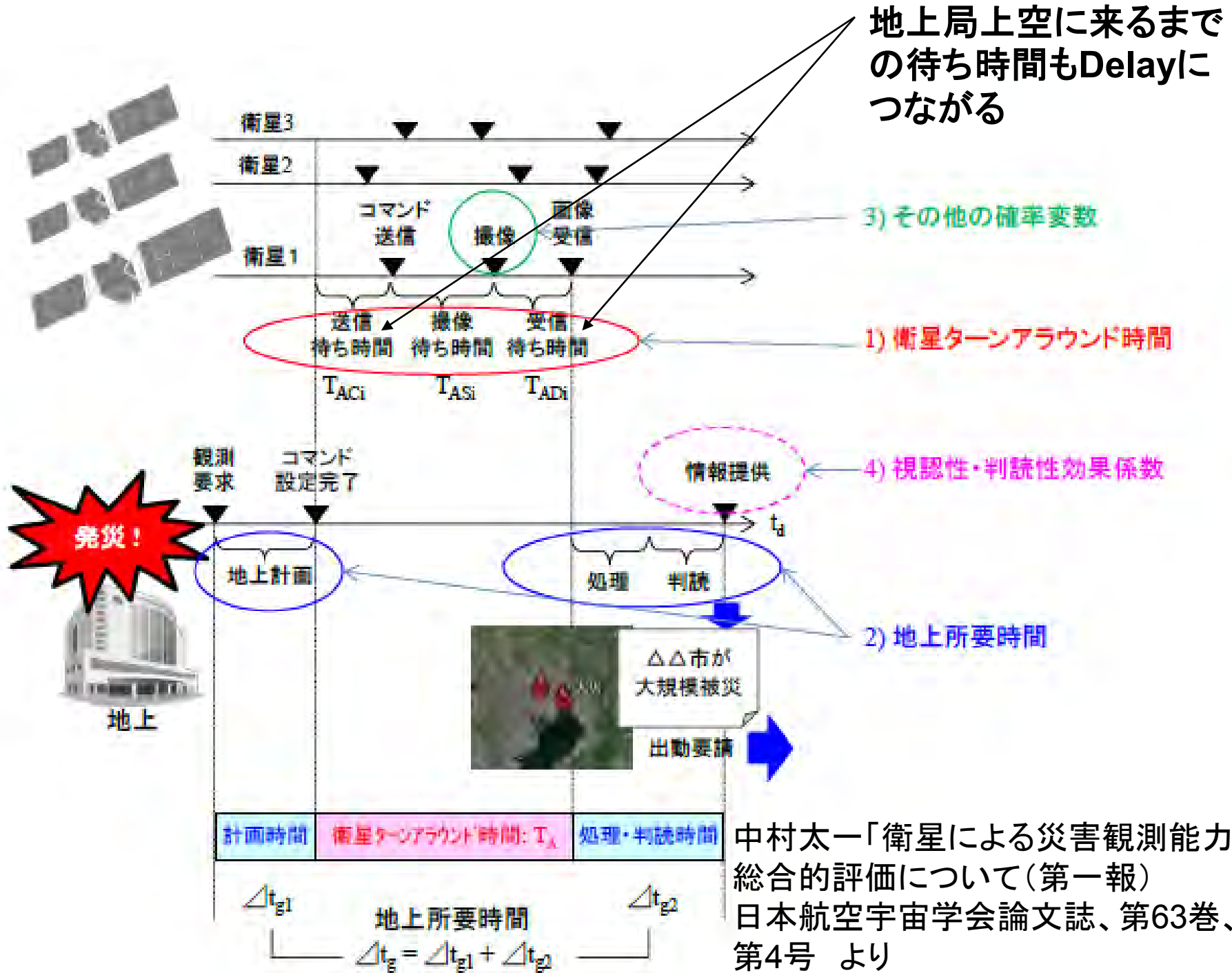


地球写真

東日本大震災後の状況と衛星観測



中村太一「衛星による災害観測能力の総合的評価について(第一報)」
日本航空宇宙学会論文誌、第63巻、第4号 より



地上局上空に来るまでの待ち時間もDelayにつながる

3) その他の確率変数

1) 衛星ターンアラウンド時間

4) 視認性・判読性効果係数

2) 地上所要時間

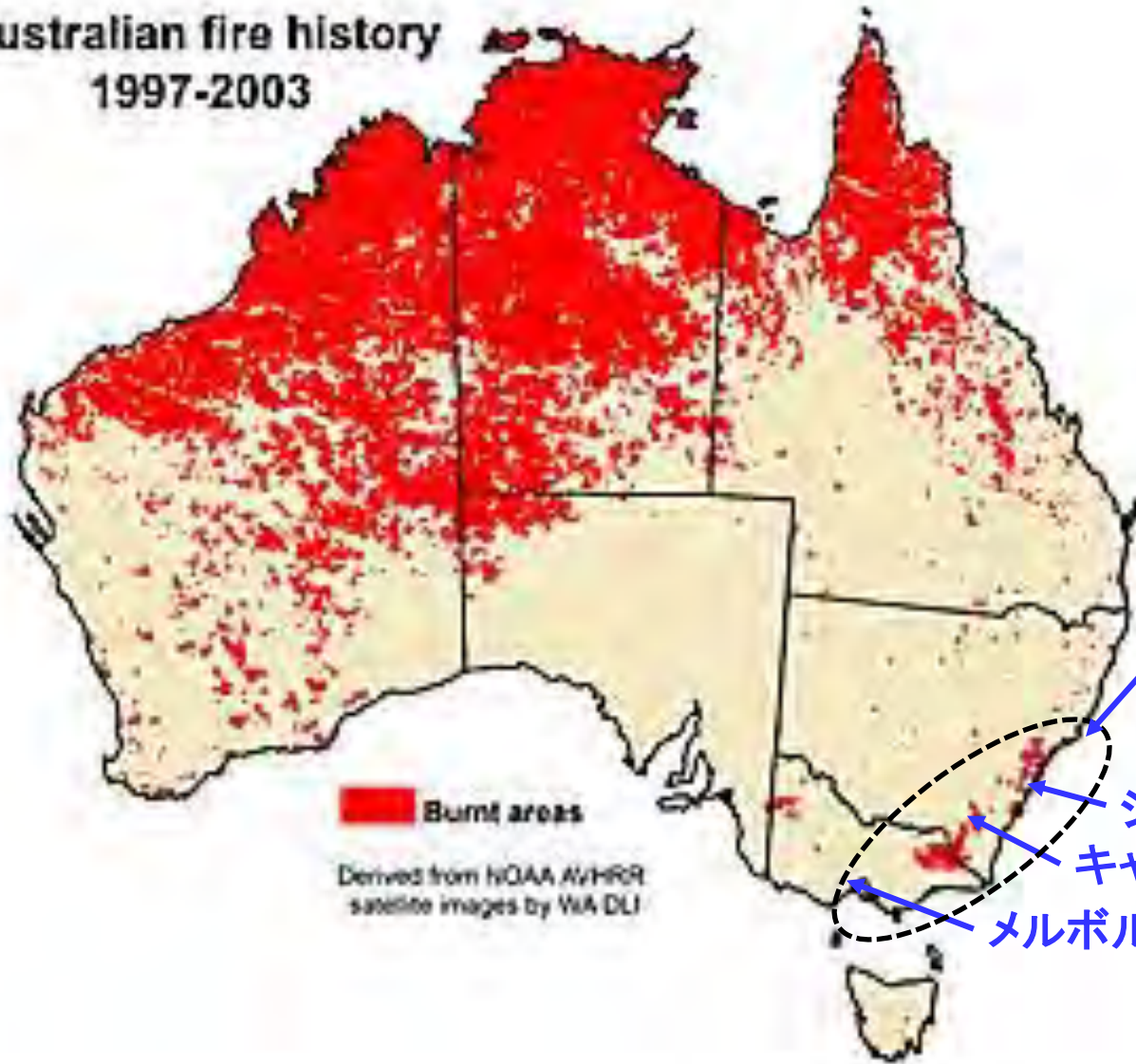
中村太一「衛星による災害観測能力の総合的評価について(第一報) 日本航空宇宙学会論文誌、第63巻、第4号 より

政府内：衛星の防災利用の議論から

- 衛星の防災利用では、特に即応性が不足。
- 発災後72時間（生死の境目）までの、探索のための情報だけでなく、**初動のための5時間**の情報取得が大事
 - 被災地の全体像を知って人を送るための基礎情報
 - どんな分解能でも使い道はある
 - これ以降は、現地に人が入るので、情報が取れる
 - 燃え広がる火災などはさらに即応観測が必要
- 「打ち上げた衛星を利用する」ではなく、どんな衛星が役立つかの議論が必要

オーストラリアでのBush Fire問題

Australian fire history
1997-2003



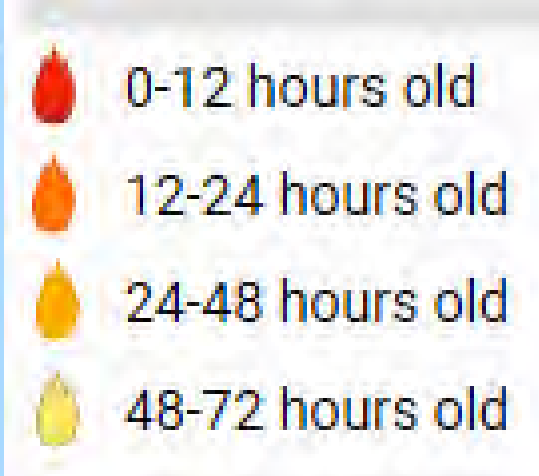
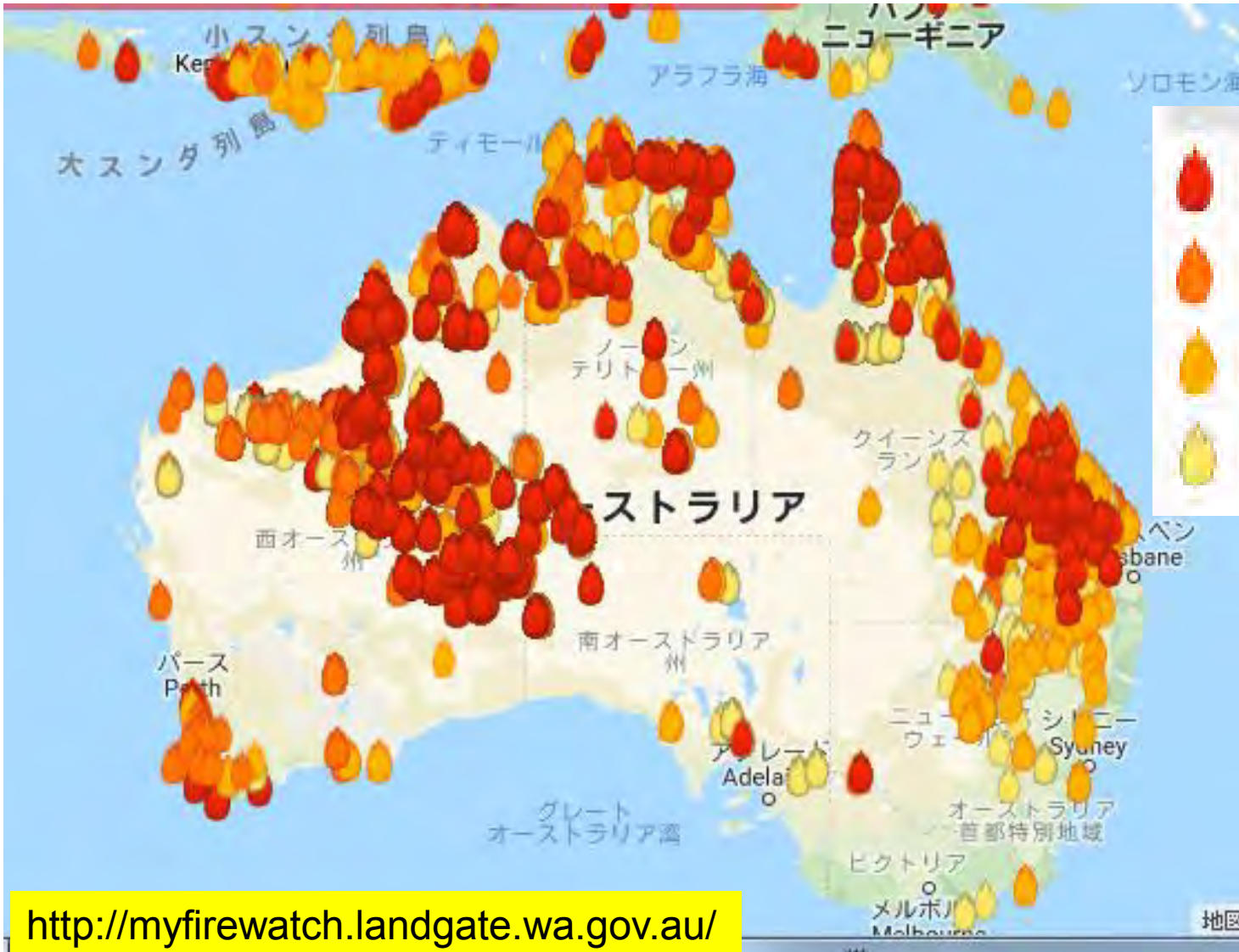
人口密集地

シドニー

キャンベラ

メルボルン

Bush Fireのリアルタイム情報



2018/10/17

<http://myfirewatch.landgate.wa.gov.au/>

山火事の可能性を表示する看板 (山道の入り口の各所に設置)



Bush Fire Detectionに便利な衛星

ひまわり8,9号

- 赤外で2km分解能
AHI(advanced Himawari Imager)
 - 可視3バンド
 - 赤外13バンド可視は0.5-1km分解能



Band 7(3.9 μ m): 分解能 2km 中心波長 3.8853(8号)3.8289(9号)
用途: 下層雲・霧、自然火災

- 観測間隔10分(日本近辺は2.5分)